



Title	Association between number of pairs of opposing posterior teeth, metabolic syndrome, and obesity
Author(s)	岩崎, 理浩
Citation	(2018-09-05)
Issue Date	2018-09-05
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/38636">http://hdl.handle.net/10069/38636</a>
Right	

This document is downloaded at: 2019-05-20T09:40:45Z

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1087 号	氏名	岩崎 理浩
学位審査委員	主査	吉村 篤利	
	副査	藤原 卓	
	副査	渡邊 郁哉	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、これまでに報告されている現在歯数・咀嚼能力とメタボリックシンドローム・肥満との関連性に加え、咀嚼機能と関連すると考えられる臼歯部の咬合状態とメタボリックシンドローム・肥満との関連性に着目した研究で、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 本研究の対象者は、平成 17 年に実施された国民健康・栄養調査及び歯科疾患実態調査に参加した 2,807 名であった。対象者数は、今回の分析手法に対して十分に大きな数であると評価された。臼歯部の状態の評価には Total Functional Tooth Units (t-FTUs) を用いた。また、t-FTUs とメタボリックシンドロームや肥満、腹部肥満との関連についての分析には、単変量・多変量のロジスティック回帰分析（ステップワイズ法）を用いた。以上のように研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、臼歯部咀嚼不良群（t-FTUs=0-9）は、臼歯部完全群（t-FTUs=12）と比較して、メタボリックシンドロームや肥満、腹部肥満に該当する者のオッズ比が有意に高かった。 歯の喪失防止及び臼歯部の咬合の維持といった歯科保健の取り組みが、メタボリックシンドロームや肥満の予防につながることを示唆された。このことは、肥満予防に関する新たな見解として期待できると評価された。</p> <p>以上のように本論文は歯学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			